僕が死のうと思ったのは

うみねこが桟橋(さんばし)で 鳴(な)いたから

波(なみ)の随意(まにま)に 浮(う)かんで消(き)える

過(か)去(こ)も啄(つい)ばんで 飛(と)んでいけ

僕が死のうと思ったのは

誕生日(たんじょうび)に杏(あんず)の花が咲(さ)いたから

その木漏(こも)れ日(び)で うたた寝(ね)したら

虫(むし)の死骸(がい)と 土(つち)になれるかな

薄荷飴(はっかあめ) 漁港(ぎょこう)の灯台(とうだい)

錆(さ)びたあっち橋(きょう) 捨(す)てた自転車(じてんしゃ)

木造(もくぞう)の駅(えき)のえきとすの前で

どこにも旅立(たびだ)てない心

今日(きょう)はまるで昨日(きのう)みたいだ

明日を変えるなら

今日を変えなきゃ

分かってる 分かってるけれど

僕が死のうと思ったのは

心が空(から)っぽになったから

満たされないと　泣いているのは

きっと満たされたいと　願うから

僕が死のうと思ったのは

靴紐(きつひも)が解(ほど)けたから

結(むす)びなおすのは　苦(にが)手なんだよ

人との繋がりもまた　然(しか)り

僕が死のうと思ったのは

少年(しょうねん)が僕を 見つめていたから

べっど**bed**の上(うえ)で 土(ど)下座(げざ)してるよ

あの日の僕にごめんなさいと

ぱそこん**personal com**の薄明(うすあ)かり

上階(じょうかい)の部屋(へや)の生活音(せいかつおん)

いんたあふぉん**interphone**のちゃいむ**chime**の音(おと)

耳(みみ)を塞(ふさ)ぐ鳥(どり)かごの少年(しょうねん)

見えない敵(てき)と戦ってる

六畳一間(ろくじょうひとま)のどんきほって

ごっる**goal**はどうせ醜(みにく)いものさ

僕が死のうと思ったのは

冷たい人と言(い)われたから

愛されたいと泣いているのは

人の温(ぬる)もりを知ってしまったから

僕が死のうと思ったのは

あなたが綺麗(きれい)に笑うから

死ぬことばかり　考(かんが)えてしまうのは

きっと生きる事に

真面目(まじめ)すぎるから

僕が死のうと思ったのは

まだあなたに

出会ってなかったから

あなたのような人が生(う)まれた

世界を少し好きになったよ

あなたのような人が生きてる

世界に少し期待(きたい)するよ